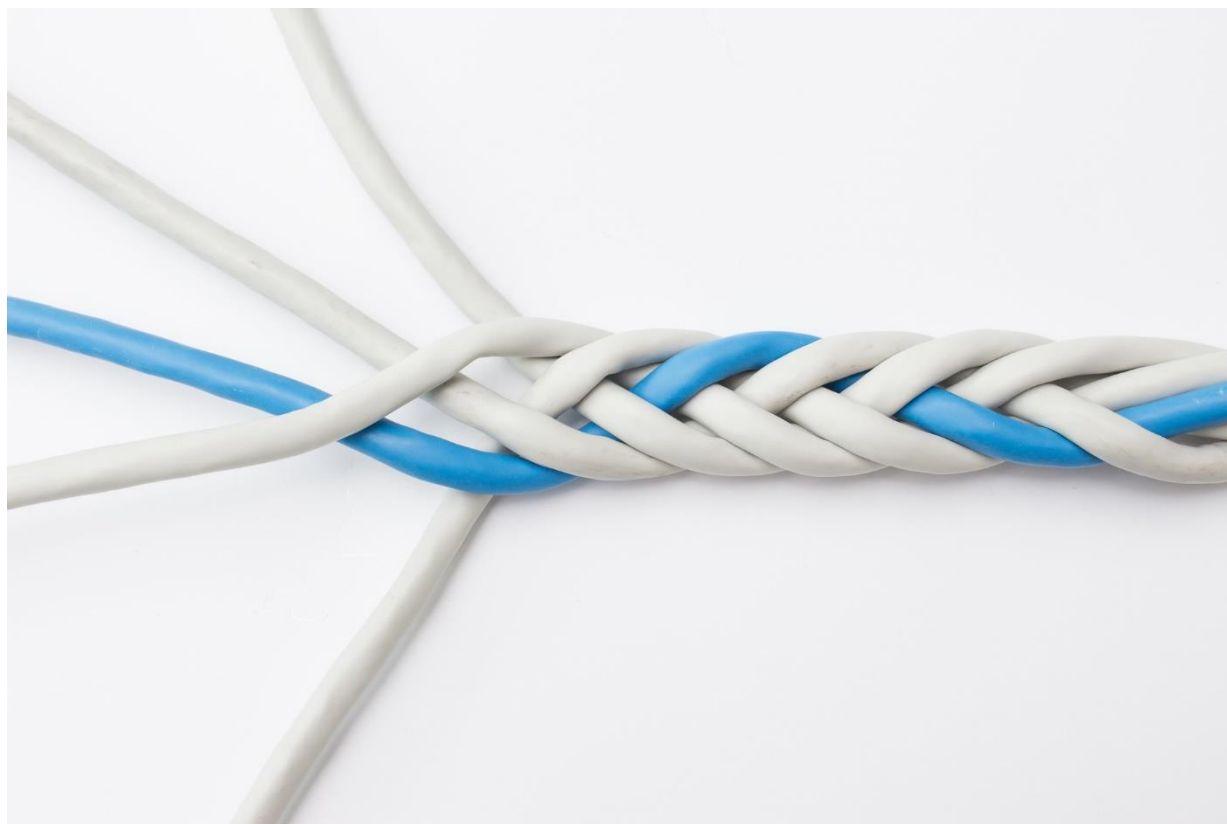


クロスオーバー・ケーブルの試験 DSX ケーブルアナライザー



2016 年 11 月 28 日
J. Davis / R. Pokorny

フルーク・ネットワークス “ナレッジベース” より抜粋

<https://jp.flukenetworks.com/knowledge-base/dsx-cableanalyzer-series/crossover-cable-testing-dsx-cable-analyzer>

はじめに

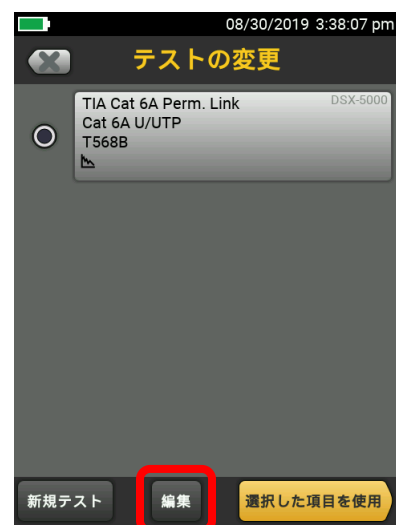
“TIA Cat 6 Perm Link” などの一般的なケーブル規格のいずれかを選択した場合、“アウトレットの構成” にクロスオーバーを選択できないことにお気づきになることでしょうか。これは、一般的なケーブル規格では、同じ配線方式（T568A または T568B）を使用して両端を終端することが要件となっているためです。

クロスオーバー・ケーブルをテストするには、このクロスオーバー配線を使用する規格（100BASE-TX、10BASE-T など）を選択してから、“アウトレットの構成” -> “クロスオーバー” を選択する必要があります。

1. ホーム画面から“テスト規格”をタップします。



2. “編集”をタップします。



3. “テストのセットアップ”画面で“テスト規格”をタップして変更を行います。



4. “その他”（画面右下）をタップして、全ての規格グループを表示します。



“最後に使ったテスト規格”メニューが表示され、直近で選択した最大 8 つのテスト規格が表示されます。

5. “アプリケーション” をタップします。



アプリケーション規格グループには100BASE-TX や10BASE-T 規格などがあります。

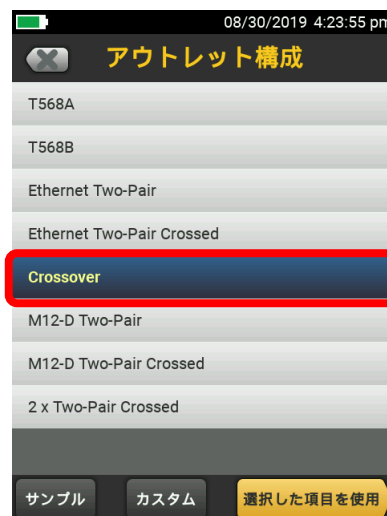
6. 100BASE-TX または 10BASE-T テスト規格を選択します。



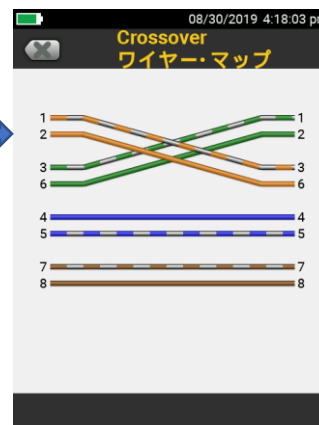
7. “アウトレットの構成” をタップします。



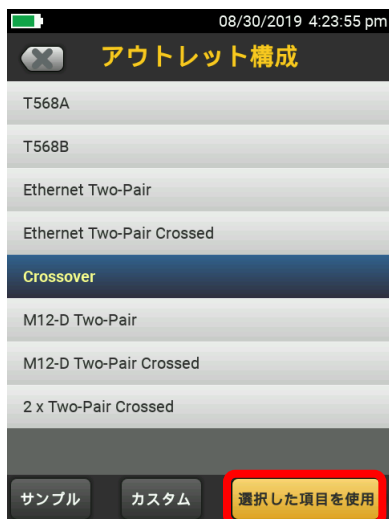
8. 必要に応じて “Crossover” または他のアウトレットの構成を選択します。



注記：“サンプル”を押すと、ワイヤーマップが表示されます。



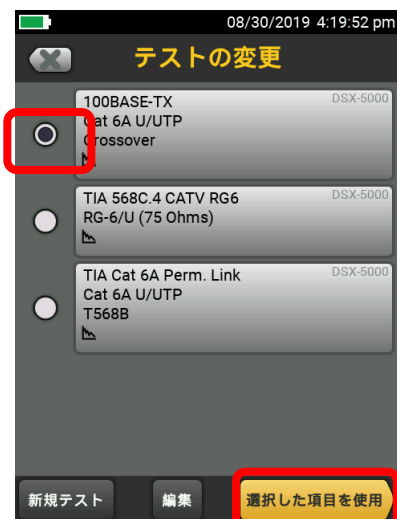
9. “選択した項目を使用” をタップします



10. “保存” をタップします。



11. ここで作成したテスト規格を選択し、“選択した項目を使用” をタップします。



12. これにより、クロスオーバー・アウトレット構成とともに、ホーム画面にテスト規格が設定されます。



13. 画面上の“テスト” をタップまたは本体上の”TEST” ボタンを押すことで自動テストが開始されます。



1000BASE-T のクロスオーバーを測定する場合

テスト規格（アプリケーション規格グループ）において 1000BASE-T を選択し、“アウトレットの構成” で “1000BASE-T Crossover” を選択します。



その他の DSX-5000/8000 の “アウトレットの構成” の選択については、下記 URL をご覧ください。

<https://jp.flukenetworks.com/knowledge-base/dsx-cableanalyzer-series/color-codes-dsx-cableanalyzer>

フルーク・ネットワークスについて

フルーク・ネットワークスは、優れた認証/トラブルシューティング/インストレーション・ツールを提供する世界大手企業です。当社の製品は、重要なネットワーク・ケーブル配線インフラを設置・保守する技術者を対象にしています。弊社は、信頼性と比類ない能力において高い評価をいただいております。最先端のデータ・センターの設置から災害時の電話サービスの復旧作業に至るまで、すべての作業を効率的に行います。

DSX-8000 CableAnalyzer™ - メタル配線認証手順のステップの時間短縮を加速化します



[DSX-8000 CableAnalyzer](#) は、最も厳しい測定精度要件である TIA の精度レベル 2G に適合する一方、比類のないスピードで Cat 8 および Class I/II のメタル認証試験を効率化します。ProjX 管理システムは、作業の確実な実施を実現し、試験のセットアップからシステムの検収までの作業進捗状況の把握を容易にしてくれます。Versiv プラットフォームは、光ファイバー試験 (OLTS と OTDR の両方) もサポートします。このプラットフォームは、将来の規格改定へのサポートに備え、容易にアップグレードが可能です。近端漏話、反射およびシールド不良を含む不良原因のグラフィカルな表示を行う Taptive (タップティブ) インターフェースにより不良原因のより素早いトラブルシューティングができます。また LinkWare PC 管理ソフトウェアを使用し、試験結果の解析と専門的なテストレポートの作成が可能です。

CertiFiber® Pro - 光ファイバー認証試験プロセスのすべての段階の作業効率を上げ、加速化します

[CertiFiber® Pro](#) は、2 波長、2 本の光ファイバー認証の効率を改善し、試験をわずか 3 秒で実施できます。Taptive (タップティブ) インターフェースにより、セットアップの簡素化、間違いの排除、さらにトラブルシューティングのスピードアップが図れます。基準値設定の自動ガイダンス機能により、確実な基準値設定が可能になり、負の損失結果発生もなくなります。OptiFiber Pro モジュールと組み合わせて、Tier 1 (基本) / Tier 2 (拡張) 試験とレポート作成のすべてを行えます。便利な 4 波長モジュール によって、シングルモードとマルチモードの両方に対応できるばかりでなく、マルチモードの EF 適合性能もサポートします。



OptiFiber® Pro OTDR - データ・センター/企業向け光パルス試験器



[OptiFiber® Pro OTDR](#) は、業界初の企業/データ・センターの課題解決向けに一からデザインされた光パルス試験器です。シンプルでこれまでにない効率性、さらにキャンパス、データ・センターおよびストレージ・ネットワークのトラブルシューティングに正に必要な機能群を組み合わせたツールで、現場の技術者を、専門知識を備えた光ファイバー専門技術者に変えてしまいます。すなわち、業界唯一のスマートホン・タイプのユーザー・インターフェースを備えることで光ファイバー試験を新たな高みに導きました。そして、DataCenter OTDR コンフィギュレーションにより、データ・センター試験における不確実性やエラーが排除されます。その極めて短いデッドゾーンにより仮想化データ・センターにおける光ファイバー・パッチコード試験も可能にします。

FI-7000 FiberInspector™ Pro - 光ファイバー・コネクタ一端を 2 秒で自動合否判定

[FI-7000 FiberInspector™ Pro](#) は、汚れ、へこみ、小片、および傷による問題箇所をグラフィカルに表示します。業界標準規格の IEC 61300-3-35 に基づき判定できるため、端面検査における主観的な判断を削除することができます。



Versiv 製品選択ガイド

選択ガイドへのリンク

フルーク・ネットワークス
株式会社 テクトロニクス&フルーク フルーク社

〒108-6106
東京都港区港南 2-15-2 品川インターシティ B 棟 6F
TEL 03-4577-3972 FAX 03-6714-3118
Web サイト: <https://jp.flukenetworks.com>
©2022 Fluke Networks Inc. All rights reserved.
Printed in Japan 11/2022 7003190B